

藍の都

地域の方々と共に育む、
当院がお届けする健康だより

いるか通信

Vol.10

Take Free

A I N O M I Y A K O D O L P H I N N E W S L E T T E R

INDEX

- P.1 •人工膝関節センター開設のご案内と
センター長就任のご挨拶
- P.2 •ニューロリハビリテーションセンター長
就任のご挨拶
- P.3 •国際貢献事業 ミャンマーから
特定技能として3名が入職しました!
- P.4 •パワ☆リハ移転
- P.5 ~6 •脳神経外科 副部長 就任のご挨拶
- P.7 •藍の都脳卒中予防 貢献事業
バスケットコートご利用者様の声
- P.8 •失語症治療(rTMS)のためのファンクショナルMRI導入!
- P.9 •循環器内科 副部長 就任のご挨拶
- P.10 •糖尿病・代謝内科 副部長 就任のご挨拶
- P.11 •北海道での経験を活かして
- P.12 •新職位スタッフの紹介
- P.13 •病診連携でお世話になっているDrのご紹介
いわた脳神経外科クリニック
- P.14 •理事長ご挨拶



脳動脈瘤クリッピング術
森田副部長執刀
佐々木院長指導
麻酔科 丹羽科長



脳血管減圧術 岩崎名誉院長執刀
佐々木院長アシスト 五味副部長アシスト
麻酔科 丹羽科長

令和2年11月 脳卒中学会から
脳卒中センターコア施設
(地域の脳卒中センターのコア施設)
に認定いただいています

社会医療法人ささき会 所属専門医数

- 日本脳卒中の外科学会 技術指導医2名
- 日本脳神経外科学会 常勤専門医7名(内 指導医5名)
- 日本脳卒中学会 常勤専門医4名(内 指導医2名)
- 日本脳神経血管内治療学会 常勤専門医4名(内 指導1名)
- 日本脊髄外科学会 認定医4名
- 日本神経内視鏡学会 技術認定医1名



人工膝関節センター開設のご案内と センター長就任のご挨拶

人工膝関節センター開設のご案内とセンター長就任のご挨拶

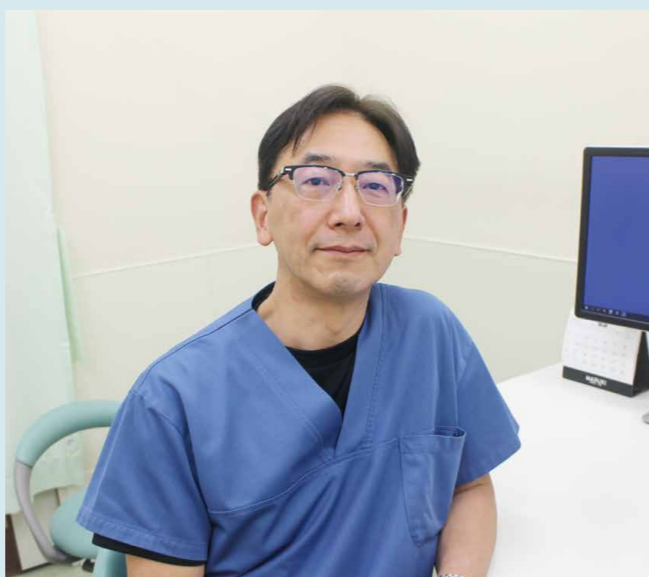
このたび7月1日より藍の都脳神経外科病院に新たに開設された人工膝関節センターのセンター長に就任いたしました宮本隆司と申します。私は大学卒業後に大阪大学整形外科医局に所属し、関連病院での研修を終え、大阪大学病院で助手を務めた後、2001年から大阪医療センターに移って人工膝関節置換術を始めました。人工関節センター長としてこの21年間に執刀した約3700症例の経験を活かし、藍の都人工膝関節センターの最新の手術設備と熟練したスタッフ、さらに40名超の理学療法士による綿密なリハビリプログラムにより、患者様のさらなる治療成績の向上を目指したより進化した医療を提供してまいりたいと考えています。

そもそも人工膝関節置換術とは、歯科で例えると虫歯にいわゆる「かぶせ」をかぶせる治療とよく似ています。加齢変化によって膝の骨と骨の間にある軟骨の摩耗が進み、骨どうしがぶつかるようになり、関節の形もO脚やX脚になってくる中高年の方に特有の変形性膝関節症という病気があります。人工膝関節置換術は、その痛みのために歩行が困難になったり日常生活に支障がでてきたりした場合に、関節の表面の骨を薄く削って金属の「かぶせ」をかぶせて骨どうしが当たらずに治療法です。同時にO脚やX脚変形も矯正して元の形に戻します。また、骨の血流が悪くなって膝付近の骨が一部くずれくる骨壊死症という病気や関節リウマチによる膝の障害に対しても人工関節置換術を行っています。いずれの手術においても傷を大きくせず、筋肉にも極力操作を加えない最小侵襲手術手技という技術を用い、さらに靭帯や骨も極力温存するように努めています。

膝に痛みをかかえ、今までにいろいろな治療を受けてきたものの症状に改善がみられなくなってしまった場合、是非一度ご相談ください。



宮本センター長 手術風景



人工膝関節センター センター長
宮本 隆司

出身大学 徳島大学

資格 ・日本整形外科学会認定専門医
・日本リウマチ学会認定専門医
・日本スポーツ協会認定スポーツドクター

趣味 釣り(魚・イカ)

モットー 誰にも負けない強い「膝関節愛」を持って治療を行っています

ニューロリハビリテーションセンター長 就任のご挨拶

ニューロリハビリテーションセンター長就任のご挨拶

リハビリテーション科の丹羽陽児と申します。私は、2004年に大阪大学を卒業し、麻酔・集中治療分野に従事した後、リハビリテーション科に移り、2021年より当院にて診療に携わっております。私の外来では、痙縮治療いわゆるボトックス外来とrTMS外来の二つを主に行っております。

ボトックス外来では、リハビリや日常生活の邪魔になる痙縮を治療しています。お陰様で全国トップクラスの症例数を担当させて頂いております。また、昨年よりrTMS外来を新たに設け、今まで入院でしか治療できなかったrTMSが、外来でもできるようになりました。rTMSは、脳卒中後の麻痺や痙縮、失語だけでなくパーキンソン病のすくみ足の患者様にも、治療させていただいており、治療効果が出ています。

さてここからは、リハビリの新しい考え方と、当院のリハビリの特徴をお話しします。今までは、脳卒中発症後6ヶ月を過ぎれば、麻痺の改善は期待できないと考えられてきました。そしてリハビリでは、健側の手足を鍛え、それらを使った生活を旨にすることに主眼が置かれていた一方で、麻痺側の実質的な改善はどこか置き去りになってきた現実がありました。しかし、神経可塑性しんけいかそせいという新しい考え方のもと、脳卒中リハビリが劇的に変わりつつあります。

神経可塑性とは、脳が傷ついて一部の機能を失っても、周りの残った神経がその機能を補うことで、脳の働きを取り戻すという、脳の再生能力のことです。そして、脳卒中の発症から時間が経っても、リハビリで神経可塑性を引き出せば、治療効果が目指せると考えられるようになってきています。

この考えに基づき、常にチャレンジしているのが当院と言えます。rTMSを始め、電気や磁気を使った刺激機器、経験豊かなセラピスト、装具療法、ロボットを使った運動療法など、リハビリの相乗効果を目指して様々な取り組みを行っています。

これからも、質の高いリハビリテーションを提供していきたいと考えておりますので、是非当院をよろしく願います。



丹羽センター長によるボトックス施注風景
(エコー下における実施)



rTMSオペレーター 丹羽センター長



丹羽麻酔科長 麻酔導入風景



ニューロリハビリテーションセンター センター長 兼 麻酔科科長
丹羽 陽児

出身大学 大阪大学

資格 ・麻酔科学会専門医・指導医
・麻酔科標榜医
・日本リハビリテーション医学会

趣味 山登り・コーヒー

モットー 継続は力なり

ミャンマーから特定技能として 3名が入職しました！



看護助手として、患者さんの食事や入浴、排泄の介助など、日々介護の業務に励んでいる彼女たちにインタビューをしました！

▼ミャンマー語の名前です

ထဲထဲအောင်

テーさん



ထွန်းထွန်းစန်း

トエーさん



ဒွေးစိန်

ソーさん



Q1. 日本で介護の勉強をしようと思ったきっかけは？

介護の仕事は、私に適した仕事だと思いました。

ミャンマーでボランティアとして周りの高齢者の世話をしたことがあり、日本で介護の技術や知識を身につけたかったからです。

おじいちゃんおばあちゃんたちに優しくお世話をしてあげるのが好きです。そして日本人ともっとコミュニケーションをとれるようになりたいからです。

Q2. 日本でいきたい所、やりたいことは？

一番寒いときに白川郷へ行きたいです。

東京へ行ったり、富士山に登りたいです。

沖縄の宮古島へ行って、ヤシガニを食べてみたいです。

Q3. 実際に仕事しての感想は？

ここへ来る前は、人間関係がうまくいかどうか心配していたけど、みんな優しいので今は大丈夫です。

どんなに疲れていても患者さんから「ありがとう」と笑顔で言われると温かい気持ちになり、大きなやりがいを感じます。

患者さんたちが元気になっていくのを見ると本当にうれしいです。健康でいることが大切だと感じました。

Q4. 意気込みを！

これから介護の仕事を頑張りたいと思っています。

日本で学んだ介護の技術を母国で活かしたいです。

日本語の先生として皆に教えてあげられるように日本についているんな知識を勉強していきたいです。

2020年4月に藍の都にきて2年経過した3人の現在の様子についても聞いてみました！

ここでの看護助手としての経験は本当に素晴らしいものです。患者さんのお世話をすることがとても好きになりました。この介護の仕事は、私の国では少ないので、この仕事に興味がある人たちに教えてあげたいです。目標は日本語能力試験N1まで合格すること、介護福祉士になることです。夢はミャンマーで介護の仕事をすることです！

患者さんからの笑顔の「ありがとう」は、私を幸せにしてくれます。時々、患者さんが何を言っているかわからない時は大変ですが、今まで仕事でできなかったことをできるようにこれからもチャレンジしていきたいです。今度日本語能力試験N2を受けるので、合格できるように頑張っています。夢は美容師と通訳者です！

日本に来た頃は、生活にあまり慣れていませんでしたが、今は日本の生活が好きになりました。ここは、脳神経外科病院なのでいろんな患者さんがいます。だから介護の経験だけでなくたくさんの経験を得ることができました。そしてたくさんの患者さんと話すので、日本語がどんどんうまくなりました。これからは仕事をもっと頑張って、まだ知らない仕事があれば学び続けたいです。今後の目標は日本語能力試験N2を合格することです。そして介護福祉士になりたいです。夢はミャンマーに介護の学校を開くことです！

ရွှေစင်ဆန်း

看護部 技能実習生
ジンさん
(勤続3年目)



ဝင်းရတနာစွန်း

看護部 技能実習生
ニンさん
(勤続3年目)



ဝင်းမုံ

看護部 技能実習生
モンさん
(勤続3年目)



脳卒中リハビリ特化型

パワ☆リハ 移転

平素より当法人の取り組みにご理解いただきありがとうございます。

2022年9月末まで、通所リハビリテーション(パワ☆リハ)と訪問リハビリテーションは藍の都脳神経外科病院の1階で営業してきましたが、ご利用者が増え、感染対策の事も検討し、2022年10月1日より隣接する建物へと移転しました。移転したことで、スペースも広くなり、体幹回旋運動と股関節周囲の筋力強化を行うマシンを新たに導入しました。

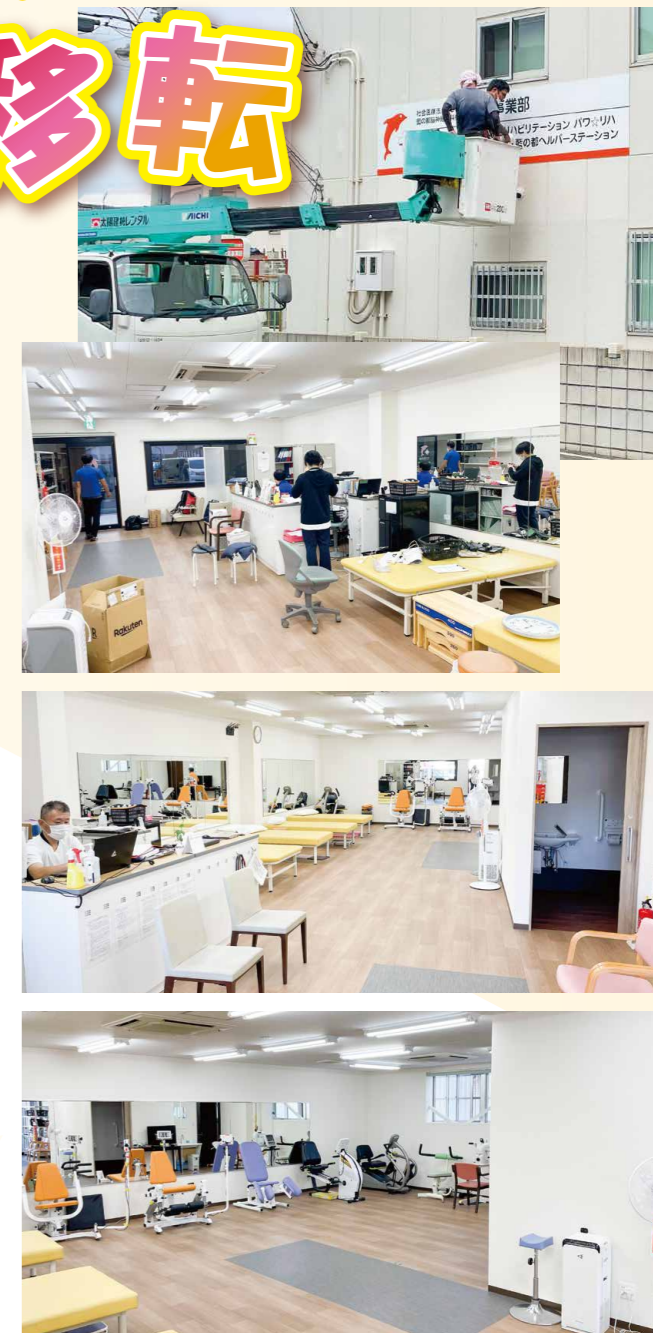
個別リハビリテーションでは病院内で営業していた時と同様に反復経頭蓋直流電気刺激装置(tDCS)や末梢神経電気刺激装置(NESS、ESPURGE、IVES)など脳卒中に特化したリハビリテーション機器も活用しながら介入しています。少しずつでも動きの改善を感じられた手や足を生活の中で積極的に使用していただけるように提案しながら介入しています。リハビリの時だけ体を動かすのではなく、生活の中で使用していくことがさらなる改善には必要とされています。ご利用者様の望まれる生活に少しでも近づけるよう目標を共有しながら、生活の中での無理のない身体の使い方を身につけていただけるよう介入しています。

彩りの都介護事業部では、地域の皆様がその人らしい生活を少しでも長く続けていけるよう支援していきたいと考えています。11月1日から同建物内に藍の都ケアプランセンターと藍の都ヘルパーステーションも移転しました。お気軽にご相談ください。



通所リハビリテーション
パワ☆リハ 責任者 兼
リハビリテーション部
副科長
石橋 征之
(勤続11年目)

趣味 野球観戦
モットー 為せば成る



パワ☆リハ 移転

正面入口

脳神経外科 副部長 就任のご挨拶

みなさん、こんにちは。この9月から当院脳神経外科へ副部長として再任いたしました森田寛也と申します。2019年6月から2021年5月まで当院で勤務しておりましたので、覚えていただいている方もいらっしゃるかもしれません。2021年6月からは最新の脳神経外科手術を学ぶために単身福岡に乗り込み、福岡市南区にあります福岡脳神経外科病院というところで研鑽を積みました。こちらの病院は脳血管障害や脳腫瘍をはじめとして多様な脳神経手術を行っており、年間1000件を超える手術実績があります。そして、その手術それぞれに日本でもトップクラスの経験を持つ医師が指導にあたっていることも特徴になります。

より深部へ、より負担を少なく

私が福岡で集中的に学んできた手術の一つが神経内視鏡手術です。細長い筒の先端にカメラを取り付けた硬性鏡というものと、胃カメラのように曲げて動かすことのできる軟性鏡という2つの内視鏡があり、これらを病気に合わせて使い分けて手術を行います。対象となる病気として代表的なものに、「脳内出血」「下垂体部腫瘍」(写真1)

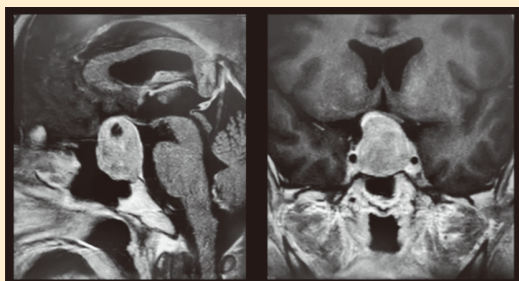


写真1：下垂体腺腫

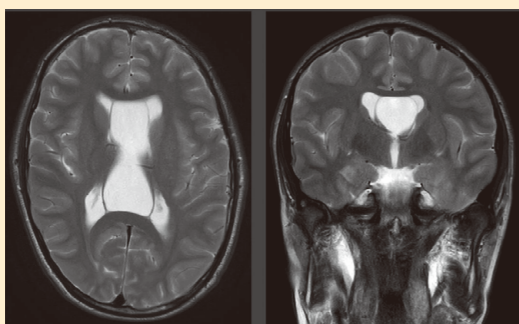


写真2：脳室内嚢胞

「脳室内嚢胞・腫瘍」(写真2)があります。脳内出血に関しては当院でもすでに多くの症例経験がありますが、残る2つは特に専門的な技術を必要としますので、十分な経験を持って行える施設はそれほど多くはありません。私は神経内視鏡技術認定の学会資格を有しており、福岡では内視鏡手術の第一人者のひとりである矢野茂敏先生(日本神経内視鏡学会評議員、日本間脳下垂体腫瘍学会理事)に指導をしていただきました。

また、この手術は内視鏡で撮影した映像を見ながら行う手術ですので、どうしても搭載されているカメラの性能に左右されますが、当院に導入されている内視鏡は4Kの最高画質で撮影できる最新の機器になりますので、より高い精度での手術が可能となります。

下垂体部腫瘍はたとえば、頭痛や視野が欠ける・ぼやけるといった症状でお困りの際に見つかることがあります。ほとんどの腫瘍は良性のものですが、放置しておくと視力を失ったり、命に関わったりする場合があります。手術をすることでこれらの症状の改善・予防が期待できます。その手術方法



写真3：経鼻内視鏡術中画像
(福岡脳神経外科病院在籍時 森田副部長執刀)

もさまざまなバリエーションがありますが、私が行う方法は、鼻の奥の粘膜を1~2cm程度切開するだけです。お身体への侵襲が非常に小さいのが特徴になります。右の鼻の穴から内視鏡を挿入し、その映像をモニターに映します。その映像を見ながら両方の鼻の穴から道具を出し入れすることで手術を進めていきます(写真3)。下垂体は体内のホルモン分泌をコントロールする臓器ですので、術後にホルモン異常が出てしまう場合があります。その場合も当院にいる内科医師と連携をとりながら治療にあたらせていただきます。

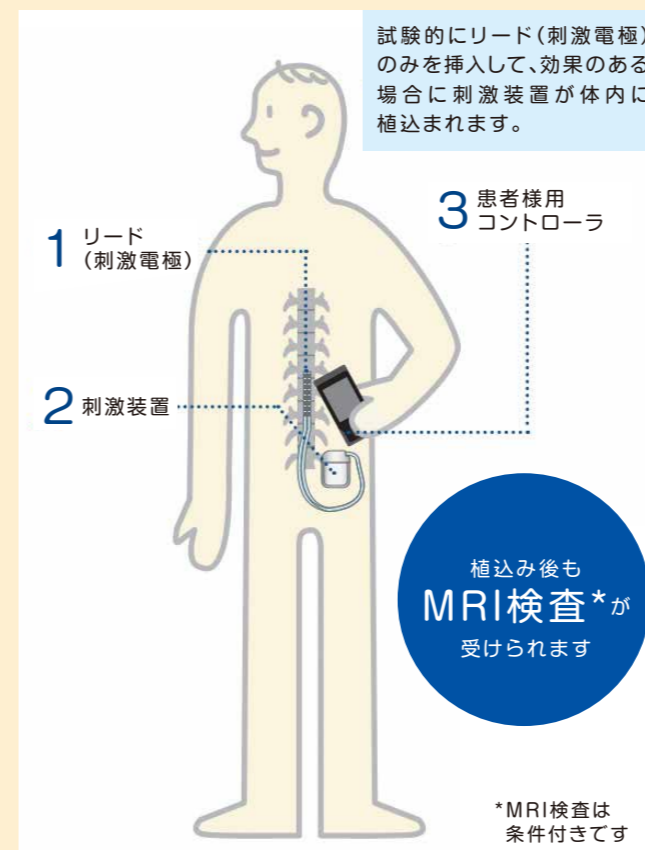


写真4：SCSシェーマ

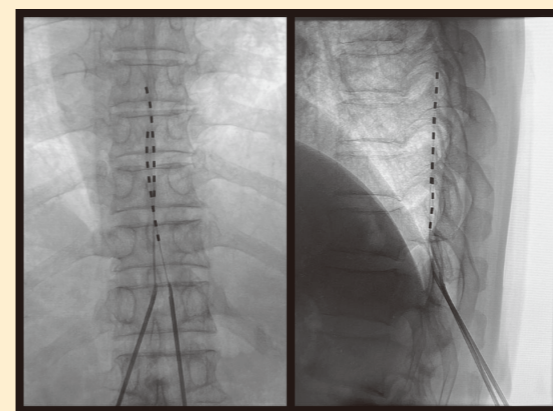


写真5：SCS術中画像

治らない痛みでお困りの方へ、 新たな可能性を提案します

もう一つ当院に持ち帰ってきた手術は脊髄刺激療法(写真4)です。これは末梢の難治性疼痛に対する治療法として始まりましたが、最近は脳卒中後の疼痛や意識障害の改善など中枢領域にも裾野が広がってきています。透視画像で確認しながら背骨の中の硬膜外腔という部位にリード線を留置し(写真5)、ここから脊髄へ電気刺激を行うことで症状の緩和を行います。当院には2方向から撮影できる最新の透視装置がありますので、被曝も少なく、手術時間も短く行えます。まだまだ国内での認知度は低い手術ですが、世界では多くの方が満足されている手術になります。技術の進歩で効果も高まってきておりますので、痛みでお困りの患者さんへの一助となればと考えています。

福岡で学び、持ち帰ってきた手術に関して簡単にお話させていただきました。もちろん、当院が得意としている脳血管内治療の専門医資格も持っていますので、脳血管障害の診療も行います。幅広く脳神経外科疾患を経験していますので、何かお困りのことがあれば遠慮なくご相談ください。よろしくお願いいたします。



脳神経外科/脳血管内治療科 副部長
森田 寛也

出身大学 神戸大学

資格 ・日本脳神経外科学会専門医
・日本脳神経血管内治療学会専門医
・日本神経内視鏡学会技術認定医

趣味 旅行、美味しいお店探し

モットー チャレンジ

バスケットコート

当院では近隣にお住いの地域の皆様を対象に、バスケットコートを開放させていただいております。



週1回ご友人とご利用いただいている高松様よりお声をいただきました

- Q ご利用頻度は？
- A 最近は週1回程度。学校が早く下校できる時。
- Q ご利用のきっかけや目的は？
- A バスケットゴールを見つけたから
- Q 主にどんな練習をされていますか？
- A 2対2対の対人ゲーム
- Q 実際に使用されてのご感想は？
- A 近所にあったことも嬉しかったし、とても使いやすい。

保護者様より

中学の部活引退後、近くでできる場所がないため無料開放して下さることに感謝しています。

家族でご利用いただいているI様のお子様にお声をいただきました

- Q ご利用頻度は？
- A 2か月に1回
- Q ご利用のきっかけや目的は？
- A 近くにゴールがないため
- Q 主にどんな練習をされていますか？
- A シュート・ドリブル
- Q 実際に使用されてのご感想は？
- A ゴールを一人で使えるから集中して練習できる。フェンスがあるからボールが道路に出なくて安心。家から近い。ベンチがあって休憩できる。

保護者様より

バスケットコートを開放して下さり、ありがとうございます。自主練習できる場所がないので大変助かっています。



自主練や秘密の特訓、運動不足の解消等にぜひご利用ください！



バスケットコートのご予約について

ご利用時間: 平日12時~16時45分まで (一回1時間まで)
 ご利用人数: 一組様4名以下
 ※お子様のご利用の場合は保護者の方が必ず付き添いをお願いします

予約電話番号 **06-6965-1800**

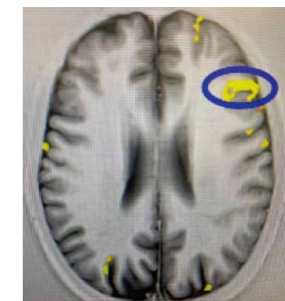
お電話の際に「バスケットコートの予約」とお伝えください

ご使用の際は近隣の方のご迷惑にならないように、大声騒音等にはご注意ください

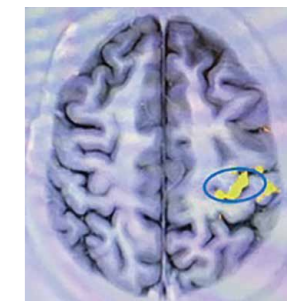
失語症治療(rTMS)のためのファンクショナルMRI導入!

ファンクショナルMRIは機能的磁気共鳴画像検査という名称の検査です。頭文字をとってfMRIとよく略されています。fMRIの最大の特徴は「機能的」というだけあり、通常のMRIではわからない「脳の活動」を画像で確認することができます。誌面上部の左右の写真は当院で実施したfMRIの写真です。左側はfMRIの中で言葉を思い浮かべる課題を行い測定したもので、青丸で囲っている場所が言語活動時に変化が生じた部位です。右側の写真は右手を動かした際の脳の活動を測定したものです。比べてみると、それぞれ違う脳の部位が働いていることがわかります。このようにそれぞれの課題に対して活動する脳の部位を測定し確認する事がfMRIによってできます。

当院で現在主に取り組んでいるのが、脳卒中後の失語症(言葉が出てこない、言葉が理解ができないなどの言語症状)患者様にfMRIを行い、脳の左右どちらで言語活動を行なっているかを評価することに取り組んでいます。通常は右利き者の約95%、左利き者は約60~70%が左脳で言語活動を行っていると言われております。しかし、脳卒中によって左脳が傷つき失語症が起きるとそれまで左側の脳で言語活動をしていたのが、人によっては言語活動時に右半球や両側が働くようになります。また回復過程で様々な変化が生じ、左脳で言語活動をしていたのが右脳に移動し、またそれが別の時期では左脳に移動するなど非常にダイナミックな動きを認める方もいます。fMRIによって左右どちらの脳で言語活動が行われているかを評価し、対象の脳に適切な刺激を加え失語症などの脳卒中後遺症からの良好な改善を導けるようになることを目標に頑張っていきます。



言葉を思い浮かべている時の活動部位



右手を動かしている時の活動部位



ファンクショナルチーム (伊藤主任:上段一番右) 放射線科・リハビリの合同チームで取り組んでいます



実施風景



第3回日本シミュレーションセラピー学会 学術大会 優秀賞受賞



リハビリテーション部 主任 伊藤 海人 (勤続5年目)

趣味 読書

モットー 情けは人の為にならず

循環器内科 副部長 就任のご挨拶

4月から着任致しました循環器内科の加藤崇と申します。臨床研修後、主に心臓病として虚血性心疾患と呼ばれる狭心症、心筋梗塞のカテーテル検査、治療や心臓弁膜症、不整脈やそれら心臓病に伴った心不全の患者様の治療に従事して参りました。

初期研修のときの上級医から「患者様を愛しているご家族はもう1人の患者様」と教わったことを今でも覚えています。

脳神経外科の病気と同じように、心臓の病気は急に具合が悪くなることも多く（脳卒中の患者様の5人に1人が心臓の病気を合併しているという報告があります）、辛そうにしている本人さんを見てご家族が動揺し取り乱してしまうのは無理ありません。そのように患者様を愛しているご家族を含め周囲の方は、ときに精神的なサポートを必要とする患者様になってしまうことがあります。本人への治療はもちろん、つねに患者様本人やご家族の心情を配慮して丁寧な診療を行い、病気のことや今後の見通しなどの説明を心がける必要があると常々感じております。



頸動脈ステント留置術 + 対外ペースメーカー術
矢野脳神経外科副部長執刀 加藤循環器内科副部長アシスト



頸動脈ステント留置術
山平循環器内科部長執刀 加藤循環器内科副部長アシスト

心臓病は多くが動悸、胸苦しさ、息切れ、失神という症状を引き起こします。胸苦しさや動悸などの普段と変わった症状で比較的早期に外来受診され早期治療に繋がればよいのですが、少しずつ息切れが進行した場合は患者様によっては歳のせいだと考えてしまわれがちで、そのまま放置されることにより心臓病がかなり進行してしまい心臓としての機能が低下した状態で病気が見つかるというケースも数多く見てきました。

残念ながら現在の医療では一旦失われた心臓の機能は元に戻ることはありません。ご本人は「もっと早く病院を受診していればよかった」、ご家族は「なんとかしてあげることができなかったか」、そのような後悔を感じる方が少しでも減るように予防治療も積極的に行っていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願いします。



循環器内科 副部長
加藤 崇

出身大学 京都府立医科大学

資格 ・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医

趣味 映画鑑賞・散歩

モットー 聞く耳を持つこと
丁寧な診療と説明をすること

糖尿病・代謝内科 副部長 就任のご挨拶

本年5月に藍の都脳神経外科病院 糖尿病・代謝内科に赴任いたしました橋祐希と申します。大学卒業後、大阪市内の急性期病院にて初期研修2年を修了し、その後5年にわたり同院の糖尿病内分泌内科にて勤務を行いました。肺炎や尿路感染症などの内科一般疾患の対応はもちろん、糖尿病、高血圧などのいわゆる生活習慣病や、甲状腺、副腎、下垂体などの内分泌疾患診療に携わって参りました。

当院では主に糖尿病や高血圧などの診療を行いながら皆様とお会いすることになると思います。糖尿病は膵臓からの血糖を下げる唯一のホルモンであるインスリンの分泌の低下(インスリン分泌不全)や、肥満などが原因でインスリンが有効に働かない(インスリン抵抗性)などのインスリン作用不全により血糖値が高い状態が長期間にわたり続きます。そのような状態が続くと、喉が渇いたり、尿量が多くなったり、水をたくさんのおむなどの症状が現れる人もいますが、症状なく経過する人もいます。症状のあるなしにかかわらず高血糖状態が長年持続すると血管が傷ついてポロポロとなり、心臓病、脳卒中、失明、腎不全、足の切断といった重篤な糖尿病の合併症を引き起こします。血糖値をコントロールすることにより、そのような合併症を予防して、糖尿病のない人と同様の生活の質と寿命を確保することが重要です。

当院に赴任してから、毎日のように脳出血や脳梗塞などの脳卒中患者様が救急搬送されているのを目の当たりにしました。その中で、高血圧や糖尿病を指摘されていたものの病院を受診していなかったり、治療していたものの通院中断してしまった患者様が多いことに驚きました。当院での糖尿病や高血圧診療を通じて脳卒中含めた上記のような合併症予防のお手伝いを行えたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



坂東先生と橋先生(右)による
佐々木院長の長男(高1)(左)へのバスケ指導



奈良県立医大のエース
坂東先生(奥)と
橋先生(手前)の1on1対決



右から、
橋先生、坂東先生、
佐々木院長長男(高1)、
加藤先生、丹羽先生、
五味先生



糖尿病・代謝内科 副部長
橋 祐希

出身大学 福井大学

資格 ・日本内分泌学会内分泌代謝科専門医
・日本内科学会認定内科医
・日本糖尿病学会

趣味 バスケ・筋トレ

モットー 何事にも全力で!!

北海道での経験を活かして

北海道には、北の古代人からアイヌ文化、そして北海道開拓に伴い産業革命と改革など色濃いルーツを進んでいます。社会の教科書で聞いたことがあると思いますが、アイヌ民族や屯田兵に五稜郭…そして現在は、食材の宝庫やウィンタースポーツに倉本聰のドラマたちが容易に連想できるのではないのでしょうか。

自分のような地元出身者や、移住して長年住んでいる方々・住んでいた方々であっても北海道の全てを知っている人はほとんどいません。それだけ広大で、地区ごとに小さいものから大きいものまであるのが北海道なんです。これを読んでいる皆さんも自分の興味や嗜好で北海道について調べたり、実際に訪れたりして自分に合った北海道を楽しんでみてはいかがでしょうか。



北海道での学びと経験

はじめまして、理学療法士の佐藤祥太です。私は兵庫県のリハビリ病院に4年間勤務した後、2019年4月より藍の都脳神経外科病院に在籍しています。昨年度一年間は、研鑽のため北海道の札幌医科大学附属病院で勤務していました。札幌で学ぼうと思った理由は大きく2つありました。1つは近年、注目されている領域である再生医療について学んでみたいと思ったことです。

もう一つは、祖母の影響があります。祖母の祖先は北海道先住民の「アイヌ民族」でした。アイヌとは日本語で「人間」を意味します。学童期において、「全ての物には生命があり、思考には意味がある」と教えられました。私自身その教えに感化され、尊敬した祖母の故郷である北海道で学ぶことに大きな意味を感じました。

札幌での1年間は、理学療法士としてはもちろん「人間」として大いに成長出来ました。皆様により良いリハビリを提供していけるように今後も研鑽に励みたいと思います。



趣味 グルメ旅、ワインにハマっています！
モットー 凡事徹底
理学療法士
佐藤 祥太
(勤続4年目)

Born in Hokkaido ~A Male Nurse~

現在、大阪在住。しかし、生まれも育ちも看護師の基礎教育も北海道。毛蟹が大変美味な北海道から、美味しい日本酒呉春とかすうどんを誇る大阪へ転職移住した経歴を持つ正真正銘の病棟・手術室経験看護師です。

いまだに早く地元に戻りたいと切に願いながら…一生懸命に患者様と当病院のためにせせと汗水とたまに涙を流す日々を送らせていただき、手術室で非常に個性豊かなスタッフの方たちと面白可笑しく真剣に働いております。

当病院の手術室業務は他の病院と異色な点があります。それは、北海道の病院にも当てはまるひとつの業務形態です。手術症例だけの関わりではなく、ER(救急搬送の対応)対応にも着手してスムーズで迅速な流れで手術治療や血管内治療(カテーテル治療)へと短時間で繋げていけるよう1分1秒無駄にしないための取り組みを病院として行っています。

また、各病棟への業務ヘルプをするとともに術後の患者様方への関りを通して術後状態評価や可能な範囲での情報提供と自分達の振り返りなど次に繋げていくための取り組みに勤めています。

上には上がもっとあると考え、病院としてもいち看護師としても今後も熟考と行動に励み患者様ファーストを胸に精進していきたいと思っています。



看護部 主任
小堀 陽呂樹(勤続7年目)
趣味 ウォーキング
モットー 一生懸命生きる！

「北海道はなまらいいところだべ、一度遊びにきたらいいっしょ」

(北海道はとてもいいところなので、一度遊びにおいて)

新職位スタッフの紹介

誰かを支えられる看護師に

回復期リハビリ病棟所属、看護部副主任に就任いたしました松村と申します。

回復期・脳神経外科ともに所属するのはこの藍の都脳神経外科病院が初めてで、入職後現在も日々勉強の毎日です。生活背景を考えて個人個人に計画を練って医療・看護を提供する難しさを痛感し、他部署のスタッフと毎日相談しながら、その患者様に合った医療を提供しています。



南西部脳神経外科懇話会にて「回復期病棟における身体拘束解除に向けた取り組み」について発表しました

まだ入職して4年ほどではありますが、光栄にも副主任として看護部、病院を支えていく一員として任命していただきました。緊張と責任感に悩むこともありますが、職種を超えてスタッフに支えられて頑張っています。自分自身も、他のスタッフを支えていける一員になりたいと思っています。

患者様の退院後の生活を見据えて、看護師として何が必要なのか。患者様だけでなくご家族にも必要な看護とは何かと日々考えています。まだ看護師歴も6年と浅く、勉強不足な身のため、ご指導ご鞭撻をいただきながら皆様を支えていけるようになりたいと思います。



看護部 副主任
松村 栄里奈
(勤続4年目)

趣味 ゲームと散歩
モットー 後に回さない

母が活躍できる職場

私は医事課に入職して、6年目になりました。入職当時は子供たちも幼く、家庭と仕事を両立できるか不安もあり、非常勤として入職しました。

医事課の仕事内容を簡単に申し上げますと、受付業務と請求業務です。その業務を進めるにあたり、先生方や他部署との関わり合いが多い部署でもあります。

職種は違いますが、私と同じ境遇の職員の方々が沢山に在籍している事に安心し勇気が沸きました。またライフワークバランスを推進している職場でもあり院長先生、医事課長をはじめとし親身に接して下さる方々のサポートもあり、現在は常勤として自分自身に無理なく従事できていることに感謝しています。

まだまだ未熟ではありますが、医事課は患者様が最初と最後に接する部署であるため『病院の顔』ということをお念頭に置き、患者様と、そのご家族様に寄り添った対応を心がけるとともに、女性職員のロールモデルとなれるよう頑張っていきたいです。



医事課 副主任
竹岡 奈緒子
(勤続6年目)

趣味 旅行・スパイスカレー屋巡り
モットー 一期一会

病診連携で お世話になっている Drのご紹介

病診連携でお世話になっているDrのご紹介

皆様こんにちは。いわた脳神経外科クリニック院長の岩田亮一です。当院では「脳のかかりつけ医」として、脳卒中や認知症の予防治療や頭痛診療をメインに行っています。

「かかりつけ医」とは

「かかりつけ医」とは、健康に関することをなんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介してくれる、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師と定義されています。

「特定健診」とは

今回は当院の保健事業として、特定健診について紹介させていただきます。特定健診とは、生活習慣病に対する予防を目的に行われています。

高血圧、糖尿病、高脂血症など、脳卒中の原因となる生活習慣病の早期発見と治療そして予防を行います。

対象者は、国民健康保険の保険者と協会けんぽの扶養者（家族）の40歳から74歳が対象です。国の政策であり、助成金があります。

ご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

がん検診

また大阪市のがん検診として当院では乳がん検診を女医による超音波検査で行っています。

対象者は30歳～39歳で費用は1000円です。

子宮頸がんの予防としてHPVワクチンも行っています。

接種期間を逃された方に対してキャッチアップ接種も行っていますので、お気軽にご相談ください。

最後に、脳卒中など入院での治療や手術になった場合には、藍の都脳神経外科病院と連携させていただきますので、ご安心ください。今後とも何卒よろしくお祈りします。



TEL 06-6935-2335
〒536-0007 大阪市城東区成育2丁目13番27号
クリニックステーション野江 1-B



◎京阪本線 『野江』駅・東側出入口から徒歩約4分
『関目』駅から徒歩約9分
◎JRおおさか東線『JR野江』駅・東口から徒歩約7分

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●
13:00～16:00	★	★	●	●	/	/
16:00～19:00	●	●	●	●	/	/

★ …MRI検査	● …脳外科外来・頭痛外来
脊椎・しびれ外来	木曜(13:00～19:00) 金曜(9:00～12:00)
動脈硬化外来	月曜・火曜(13:00～17:00) 水曜(18:00～19:00)
乳腺外科外来	月曜・火曜(13:00～17:00)
脳動脈瘤外来	月曜・水曜(16:00～19:00) 木曜(13:00～19:00)

休診日 金曜午後・土曜午後・日曜・祝日



いわた脳神経外科クリニック院長 岩田亮一

理事長ご挨拶

日頃より当法人の運営にご理解ご協力をいただいている患者様、患者様ご家族、ならびに周囲の医療介護従事の皆様には心より御礼申し上げます。コロナも第八波に見舞われ、さらにはインフルエンザとの過去前例のない感染拡散のリスクがある冬場になっていくものと、職員一同心を引き締め、皆様の健康をお守りする決意です。

さて、一方で来年は当法人も開設12周年を迎えることとなります。うれしい悲鳴ですが、以前から診療参加いただいている栗林厚介脊椎脊髄センター長や山平浩世循環器部長による手術件数もさながら、新たに着任された長谷川洋名誉会長（富永病院元ガンマナイフセンター長）や岩崎孝一名誉院長（北野病院脳神経外科前主任部長）、宮本隆司人工関節センター長（大阪医療センター前人工関節センター長）による定期手術症例が大幅に増大している上に、福岡での武者修行から帰院された森田寛也脳神経外科副部長（脳神経内視鏡班長）も加わって矢野達也副部長や五味正憲院長補佐、丹羽陽児科長（麻酔医として）もひっきりなしの緊急手術対応に明け暮れている状況となっています。

これを受け、2024年秋頃完成（工事着工は2023年5月以降）を目途に、既存北側の駐車場（タカラスタンド様男子寮跡地）エリアに三階建ての増築を行うことになっています。目的は三つです。一つは**1階救急部の増設**（陰圧管理を徹底した最新の感染拡散予防機能を持っています）。二つ目は**2階手術室の増設**（既存手術室を含めると合計4室体制となります。また、既存手術室も含め、昨今の温度気候変化による湿度変化に対応する最新の清潔機密性を実現します。）。三つ目は**3階に3つの個室の新設**（既存より、より広いタイプ）と、かような感染拡散期においてもご家族と入院患者様がお面会できるようなガラス越しに対面できる面談及び病状説明室を新設します。

合わせて、一階においては、**大阪府で5台目となるガンマナイフ治療機器を導入**する予定です。この特徴は最新機種であるため従来のピン固定の不要なフェイスマスク方式で転移性脳腫瘍への治療を早期に、かつ、簡易に実施することが可能となります。これにより大阪東部地区での転移性脳腫瘍患者様への准緊急体制での早期治療による根治を目指していきたいと考えています。

今後も患者様ファーストを根幹に据えつつ、積極的な機材投資、そして、人的資源への教育投資を実施し、それを通じて患者さまへの治療レベルを向上していきたいと考えています。どうぞご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

〈診療のご案内〉

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00 (受付 8:45～11:30)	○	○	○	○	○	○	/
14:00～17:00 (受付 13:30～16:30)	○	○	○	○	○	○	/

■診療日：月～土曜日（土は午前中診療）
■休診日：日曜・祝日・年末年始（12/30～1/3）
◎救急外来は24時間診療です。※診療科により異なる場合があります。
〈面会のご案内〉平日 14:00～20:00 / 土日祝 11:00～20:00
ICU・SCU 14:00～15:00と 19:00～20:00

社会医療法人 ささき会 藍の都脳神経外科病院

AINOMIYAKO NEUROSURGERY HOSPITAL
大阪市鶴見区放出東2丁目21番16号
Tel.06-6965-1800 FAX.06-6965-1600
URL. http://www.ainomiyako.net

- ・日本脳神経外科学会専門医研修プログラム連携施設（基幹病院：北野病院）
- ・日本脳卒中学会認定研修教育施設



相互連絡する駅 ●●
連絡する路線名 ↔

JR放出駅まで
●新大阪駅より電車で15分
●久宝寺駅より電車で15分 ●京橋駅より電車で4分



理事長・院長 佐々木 庸



https://goo.gl/7z7Zzc
厚生労働省公式ホームページ内「医療施設の経営改善に関する調査研究（平成29年度）」

患者様ならびに 患者様ご家族の皆様へ

当院では医師やスタッフへの謝礼金のお受け取りは固くお断りしております。一方で当法人への寄付金については、理事長総務室を窓口にお受け入れをさせていただきますいております。当法人のハートある医療提供への取り組みにご賛同ご支援いただけましたら幸いです。

お問い合わせ先
理事長総務室
06-6965-1805(直通)